

## A08a 銀河系中心領域の観測研究：これまでとこれから

長谷川哲夫 (国立天文台)

銀河系の中心領域は、我々が住んでいる銀河の一部として重要な研究対象であると同時に、銀河の中心領域一般の研究にとっても重要な情報源である。銀河系中心の赤緯は $-29$ 度であり、日本を含む北半球中緯度地域から観測しようとする、短い1日あたりの観測時間、低い南中高度という悪条件を受け入れざるを得ない。日本の研究グループは、この悪条件にもめげず、過去に野辺山宇宙電波観測所における観測などから多くの注目すべき研究成果をあげてきた。

南半球の中緯度領域では、銀河系中心は天頂付近を通過し、北半球と比べて格段に観測条件が優れている。近年、南半球に電波や赤外線望遠鏡が設置され、それを用いた観測が続々行われて、注目すべき成果が挙げられてきている。本講演では、南半球で行われた観測を中心に、日本で行われた観測も含めながら、銀河系中心領域の研究の進展をレビューし、今後の研究展開を展望する。